



グリーンアドバイス

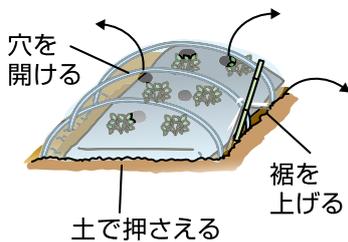
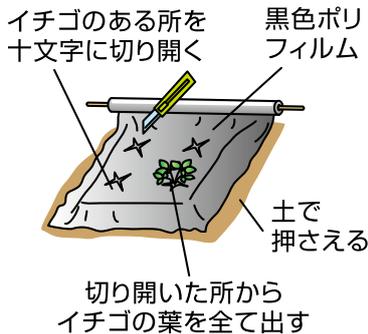
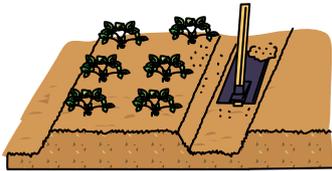
家庭菜園に挑戦

秋に植え付けた露地栽培のイチゴは、冬の本格的な寒さの下で体を縮めて休眠状態に入っていました。厳寒期を過ぎるころ（関東以西の平たん地では2月上旬）から、にわかには新葉が勢いづいてきます。

このころ、株元付近の枯れかかった葉を、付け根からかき取り、きれいに整理し、畑が乾いていたらたっぷり灌水（かんすい）し、畝の肩に化成肥料と油かすを1株当たり各小さじ1杯ほど施し、通路の土をかぶせ畝の形を整えておきます。イチゴの根は肥当たりしやすいので、株のすぐ近くに肥料をまいたり、肥料を大きく耕し込み、根を傷めないように注意してください。

追肥した後で、図のように黒色のポリエチレンフィルムのマルチをします。マルチングすることにより、それから開花、肥大してくる果実に、雨で土が跳ね上がるのを防ぐとともに、地温上昇を図り、雑草を抑止し、さらに地面からの水分蒸発を抑えて乾燥を

肥料をばらまいた上に土を掛ける



薬剤散布は葉の裏からも丁寧に

この他に、イチゴの収穫時期を早めた場合には、同時に市販の骨材を立て、

越冬後のイチゴの管理

防ぎ、肥料の流亡や土の固結を防ぐなど、さまざまな効果が期待できるのです。マルチの手順としては、育っているイチゴの上にフィルムを覆い、風で飛ばされないように、周囲の裾に土を掛け足で踏み付けておきます。そして、イチゴの株で盛り上がりつつある位置のフィルムに、刃物で切り目を入れ、イチゴの葉を傷めないように丁寧に、全ての葉をフィルム上に出してやります。株元が大きく破れたらその部分を土で押さえておきます。また株間に一握りの土を置き、風によるばたつきを防ぐようにしましょう。

フィルムをトンネル状に覆ってやります。これにより収穫を約20日ほど早めることが可能です。トンネルの裾には土を掛け、風で飛ばされないようにしておきますが、日中の気温が30度以上にならないうように、頂部に穴を開けるか、所々裾を上げて換気することを忘れないでください。マルチもそうですが、このトンネル掛りも、あまり早く行い過ぎると、咲いた花が低温に遭い、黒変枯死してしまうので、適期を守ることが大切です。イチゴが春を感じ、盛んに伸び始めてくるとナミハダニやアブラムシ、アザミウマ、輪斑病、じゃのめ病などの病害虫が発生しやすくなるので、早めに適応薬剤を正しい使用方法で散布して被害を防ぎましょう。

板木技術士事務所 ● 板木利隆